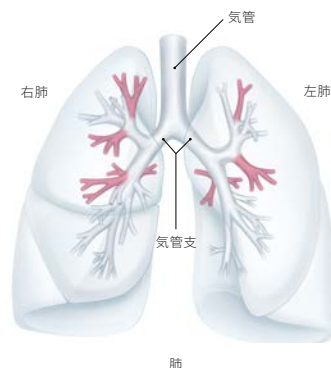


## 呼吸器科

## 肺がん

気管支や肺の上皮に発生する悪性腫瘍です。喫煙などを背景として増加しており、がんの中でも肺がんは死因の世界1位\*1となっている疾患です。



## 良性肺疾患（慢性閉塞性肺疾患）

がんなどの悪性腫瘍ではない、肺や気道の炎症・機能低下による病気の総称です。代表的なものとして、肺気腫や慢性気管支炎などを含む慢性閉塞性肺疾患（COPD）があります。肺気腫は気管支の先にある肺泡が膨張して機能が壊れてしまう疾患です。タバコなどの有害物質の吸入によって肺や気管支が炎症を起こし、それがもとになり、進行性の呼吸困難が現れます。

## 呼吸器用スコープ

オリンパスのリユース気管支鏡のポートフォリオは、呼吸器疾患の診断および治療に使用するために設計されています。高解像度イメージングと人間工学に基づいたデザインを採用し、中枢気道、区域気管支、亜区域気管支の視認性向上を支援します。これらの気管支鏡は、診断および治療の手技で使用され、手技効率および臨床ワークフローの向上に寄与します。

また、オリンパスのシングルユース気管支鏡のポートフォリオは、さまざまな臨床シナリオや患者さんのニーズに対応するため、複数のサイズと機能を取り揃えています。シングルユースの特性により、オンデマンドでの利用が可能となり、スコープ選択やワークフローに柔軟性をもたらすことで、リユース気管支鏡を補完する役割も果たしています。

\*米国および欧州の一部の国ではシングルユース気管支鏡\*も販売しています



呼吸器用スコープ

シングルユース気管支鏡  
およびプロセッサ

## 超音波気管支スコープ

スコープの先端に超音波探触子（プローブ）を搭載し、超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）を行う際に使用するスコープです。外径の細径化と湾曲角度の拡大を実現した細径超音波気管支スコープは、従来の超音波気管支スコープではアクセスできなかった末梢領域の病変やリンパ節にもEBUS-TBNA診断を拡大します\*3。

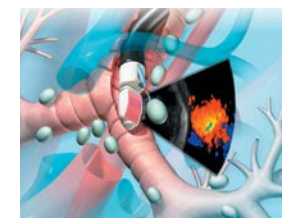
細径超音波気管支  
ファイバービデオスコープ

## 肺がん に対する診断方法

## 超音波気管支鏡ガイド下針生検

(EBUS-TBNA : Endobronchial Ultrasound-Guided Transbronchial Needle Aspiration)

主に、肺がんや、炎症性疾患、感染症によりリンパ節が腫大している場合の診断を目的に、気管や気管支経由で超音波画像をリアルタイムに観察しながら、リンパ節を穿刺し、検体を吸引採取する手技です。採取した検体は病理検査で詳しく観察・診断し、今後の治療方針を決定します。



EBUS-TBNA

## ラジアルEBUS

小さな肺病変を生検するために、その位置を特定する手技です。超音波画像を用いて、カテーテルや細径気管支鏡を気道外の結節まで誘導します。主に、リンパ節に転移する前の早期肺がんを発見し、診断するための手技です。



ラジアルEBUS

\*1 WHO がん統計データ： <http://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/cancer>

\*2 2026年3月末時点で医薬品医療機器等法未承認品です

\*3 Takashima Y, Shinagawa N, Shoji T, et al. Evaluating the Efficacy of Thin Convex-probe Endobronchial Ultrasound Bronchoscope in Cadaveric Models. J Bronchology Interv Pulmonol. 2025;32(3):e01015. Published 2025 May 21. doi:10.1097/LBR.0000000000001015

## 呼吸器科

## 使用される主な処置具

## 吸引生検針

超音波内視鏡と組み合わせて気管、気管支の組織や細胞を吸引採取するために使用される処置具です。

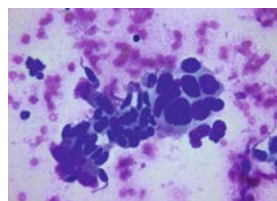


超音波気管支ファイバースコープと吸引生検針

## 肺がんに対する診断方法

## 細胞診

ブラシで粘膜をこすり、採取した組織を顕微鏡下で観察して診断する方法です。



肺がんの細胞診像

## 使用される主な処置具の例

## 細胞診ブラシ

管腔が細い気管支などで使用される細胞採取用のブラシです。細胞診ブラシの直径は1~5mm、長さは10mm以下です。

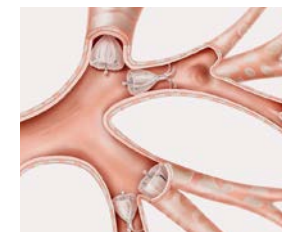


細胞診ブラシ

## 良性肺疾患（慢性閉塞性肺疾患）に対する治療方法

## 気管支鏡下肺容量減少手術

重度の肺気腫に対する低侵襲な治療手技です。気管支内にバルブを留置して肺胞を閉塞させて肺容量を減少させます。具体的には、気管支鏡の鉗子チャンネルに入れたカテーテルを通じて、肺の上葉支に小型・傘状のバルブを留置します。留置されたバルブの逆止弁効果によって、肺内の異常がある部位から正常な部位へと空気の流れを変化させることを目的としています。



気管支内バルブシステム

## 使用される主な処置具

## 気管支バルブ

重度の肺気腫の治療において、薬剤効果がない、または肺縮小術や肺移植の手術が適用されない症例に対する治療、および気胸や肺手術後に発生する持続性の空気漏れの処置を目的に使われる治療機器\*です。



気管支バルブ

## 肺がんに対する治療方法

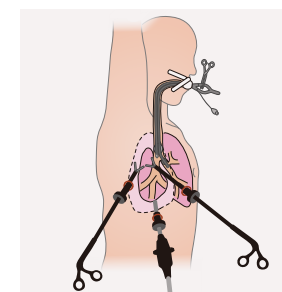
## 肺切除術

肺がんの治療には、胸腔鏡下で直径3cm以内の腫瘍を切除する肺部分切除術や同4cmを超える範囲を処置する肺葉切除術などがあります。

## 使用される主な治療機器

## 外科手術用治療機器

外科手術の際に使用される治療機器についてはP17~18へ



肺切除術（イメージ）